



編集・発行
日蓮宗 能勢妙見山
広報部
〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

盂蘭盆会施餓鬼法要

8月22日（金） 午後1時 於北辰閣（寺務所）2階ご宝前
お盆にあたり、ご先祖並びに有縁の靈位に塔婆供養します
ご希望の方は寺務所までお申し込み下さい（御志納料五千元より）

〔8月の主な行事〕

★写経会

☆登山靴祈願と供養

11時半 登山靴安全祈願
13時半 登山靴安全祈願・登山靴供養

10日（日）11時
11日（祝）

★清掃の日

★月例祈願法要

☆盂蘭盆会施餓鬼法要

★鷗様月例祭

15日（金）11時
15日（金）13時
22日（金）15時

火伏せ守りの黒札を授与します

〔9月の行事予定〕

☆八朔祭祈禱

7日（日）9時～16時

御祈禱お申込の方には「開運八朔田之実守」授与

11時30分 餅撒き

12時 特別法楽加持 ・ 引続き落語

★清掃の日

★月例祈願法要

★鷗様月例祭

15日（月）11時
15日（月）13時
22日（月）15時

◎ご祈禱・ご回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のため

ご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意しています

利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡願います
但しご希望に添えないこともあります

身体が大事

相川 大輔

「記号接地（きごうせつち）」という言葉聞いたことがありますか？

記号接地とは「言葉などの記号を理解するためには現実世界の様々な情報を身体的な感覚を通して受け取る必要がある」という考え方です。

例えば、私たちが「りんご」という言葉を理解することができるのはりんごを実際に手に持った時の重さや手触り、赤く丸い形、かじった時の音や感触、味、おばあちゃんによくりんごをむいてもらったなどのエピソード、これらの感覚や経験や身体を通してこの現実世界と接地しているからと言えます。幼い子どもは実際の犬を見てなでながら「ワンワン」を知り、車に乗りながら「ブーブー」を学んでいき知性を獲得してい

くわけです。

しかしながら、現代のデジタル社会においては、知性の劣化が懸念されています。実際に私たちは若年層を中心にSNS、メタバース、チャット、生成AI、ゲーム世界など極端に「記号的な空間」に生きています。

「いいね」や「コメント」でお互いにつながっています。相手の表情も声も感じない。映える美しい景色の画像を見てもその場の空気や匂い、肌の感覚は伝わらない。まさに、記号が現実と接地することなく切り離され、ぶかぶかと漂っている状態にあります。

そんな現代の私たちに世界とつながる身体性を回復させ、知性を取り戻させるのが信仰です。

例えば唱題とは、実際に身体を使っで行います。唱題を行じるということは、南無妙法蓮華經の功徳を自分の身体を通じて現実世界

に接地させるプロセスと行うことができるでしょう。

試しに、このことについてAIにどう思うか聞いてみると「題目を唱える行為そのものが身体を通して妙法に接続するという働きを持つ」とのこと。

現実世界に接地していないくせにうまいこと言うものだと膝を打ちました。

但し、AIの言葉は何の責任もないので、ご利用はほどほどに。

水の日

八月一日は水の日。健全な水循環の重要性について理解と関心を深める日として制定されました。妙見山の浄水堂は、昔は中腹の井戸から人力で水を運んでいました。今は電力を利用していますが、往時を偲び、改めて水環境の重要性を感じます。

《法華經に学ぶ現代》

～純智庵～

無明より

老死に至るまで

皆

生

縁に従って有り

『化城喻品第七』

どうしてこの世に

生まれて来たか

さっぱり分からぬことながら
今の時に この場所に

生きているのは

確かなことだ

おそらく皆も同じだろう

それをご縁と云うのなら

上手に年とり死ぬるまで

仲良く暮らして

生きましよう

知識まめ仏教

精進（しょうじん）

ご先祖の精霊を迎えるお盆に肉食を控える地方や家があります。

このような肉や魚を使わない料理を精進料理といいます。精進という語は仏教語で、努め励むことを意味します。それがなぜ菜食料理を指す語として使われるようになったのでしょうか。

精進とは仏道を一心に修めようと努力することであり、そこから「家業に精進する」など、一所懸命に努力精進することを精進というようになりました。また仏道を修めようとすると修行者は、酒肉を断ち野菜類だけの食物を口にするなどして身を慎んだことから、肉や魚を使わない料理を精進料理といい、また野菜類の揚げ物を精進揚げなどというようになったようです。

お盆を迎え、まずは自身が進んでいる姿をご先祖に見ていただきましょう。